

# GCI

## 2024 Interim Business Report

第108期 中間報告書  
2024年4月1日～2024年9月30日

群栄化学工業株式会社

証券コード：4229

### 01 トップ インタビュー



### 05 ニュース & トピックス



特殊フェノール樹脂 Milex 原料  
詳しくは5ページをご覧ください。

### 06 サステナ ビリティ



# 生産増強を進めつつ、市場を的確に捕捉し 収益性と資本効率の改善を目指します。



代表取締役 社長執行役員  
有田 喜一郎



## 上期を振り返り、営業状況と決算内容をご説明願います。



化学品事業の営業状況を振り返ると、電子材料関連向け樹脂は生成AI用途等の半導体需要とスマートフォン市場のハイエンドディスプレイ用途が堅調に推移しました。一方、環境関連向け高機能繊維は溶剤回収用途等が中国市況の低迷により、自動車関連向け樹脂は国内一部自動車メーカーの生産停止の影響を、また工作機械向け樹脂は自動車生産が停滞している影響を受けそれぞれ低調に推移しました。

化学品事業の海外展開では、RCS（レジンコーテッドサンド）を生産するインド子会社が好調に推移し、生産設備増強後も高稼働を継続しています。一方、フェノール樹脂を生産するタイ子会社は中国勢との競争が激しさを増す中でコスト低減施策を進めながらも苦戦を強いら

れ、自動車ブレーキ用樹脂を販売する米国子会社も厳しい状況が続きました。

食品事業の営業状況は、猛暑による清涼飲料関連需要やインバウンド需要により回復傾向となりましたが、商品構成を見直したことにより販売数量が減少し減収となりました。

なお、当社は今後見込まれる半導体市場の加速度的な拡大に備え、フォトリソスト用樹脂など電子材料向け製品について約10億円を投じた生産増強を前期に完了させ、さらに約35億円を投資して電子材料向け製品の新しい工場建設を進めています。この新工場は再来期から稼働する予定です。また、環境材料の高機能繊維「カインール」も足もとは低調ながら将来の需要拡大に備え、約16億円を投じた生産増強工事を進めています。

その結果、上期の連結業績は、売上高151億82百万円（前年同期比2.8%減）、営業利益12億35百万円（同

23.1%減)、経常利益14億36百万円(同21.8%減)、親会社株主に帰属する中間純利益9億87百万円(同22.2%減)となりました。



### 最終年度を迎えた中期経営方針の進捗をお聞かせください。



3ヵ年計画として推進中の「GCIグループ中期経営方針2024」は今期が最終年度となります。電子材料分野における「高純度・先端材料」と、Green分野における「環境対応ケミカル」、「高機能糖ケミカル」、これに「経営基盤強化」を加えた4軸で成長戦略を進めていくもので「売上高350億円」「営業利益40億円(営業利益率11%)」を最終年度の財務目標に定めています。しかし、今期の連結業績は売上高306億円(前期比1.0%増)、営業利益22億円(同19.4%減)、経常利益25億円(同20.9%減)、親会社株主に帰属する当期純利益17億円(同16.7%減)を予想しており、財務目標との乖離が生じています。これは電子材料分野においてコロナ禍の需要拡大を経て市場の動きに変化が生じたこと、またGreen分野でも高機能糖ケミカルの製品投入に対し、市場が十分に確立されていないことなどが要因であり、収益の拡大が追い付いていない状況です。

この反省を踏まえ、今後の経営計画立案においては市場予測をより精緻化しつつ、目標設定のスタンスを変えていく必要があると認識しています。

ただし、本計画の定性面は前述の4軸による成長戦略を着実に進展させており、電子材料向け製品や「カイノール」の生産増強、化粧品原料新製品の上市、インド子会社の生産増強など今後につながる成果を上げています。これらの取り組みをしっかりと結実させ、長期ビジョンに掲げる“Green Chemical Industry (GCI)”への進化につなげてまいります。



### 監査等委員会設置会社への移行についてご説明願います。



当社は、2024年6月より監査等委員会設置会社へ移行しました。これにより当社取締役会は監査等委員でない取締役4名(うち社外取締役1名)及

び監査等委員である取締役3名(うち社外取締役2名)の合計7名による体制となりました。

従前より当社取締役会は社外役員に多くの意見を求め、監査役も監査の範囲にとどまることなく、経営課題への助言を積極的に行うなど極めて活発な形で運営されてきました。監査等委員会設置会社への移行は、取締役の職務執行を監査する監査等委員が取締役会における議決権を有することで、さらなるガバナンスの強化を図るものです。

これからの当社に求められる多様性の拡がりやグローバルな視点、サステナビリティへの意識を企業文化として根付かせるべく、幅広い経験や知見を有する社外取締役のお力も借りて経営の高度化に努め、企業価値の拡大と持続的成長に資する「攻めのガバナンス」を進めてまいります。



### 株主の皆様にお伝えしたいメッセージをお願いします。



これまで当社は、株主の皆様への利益還元について配当性向30%を目安とした安定的な配当の実施を基本とし利益還元の拡充に努めてきましたが、今期よりさらなる利益還元水準の向上を図るべく、目安とする配当性向を40%へ引き上げました。

これにより今回の中間配当は1株当たり50円とさせていただきます。期末配当は同50円を予定し、年間配当額は合わせて同100円と、減益予想ながら前期同額を継続する見通しです。引き続き積極的な成長投資を実施しつつ、自己株式の取得等総合的に利益配分を行い、株主価値向上に向けて最大限努力してまいります。

近年、東京証券取引所の要請により、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」が各上場企業に求められています。特に当社においてはPBR(株価純資産倍率)が低位にあり、これを1倍以上としていく必要があります。成長市場を的確に捕捉しつつ、増強した生産設備を高効率で稼働させ、収益性と資本効率の改善を実現していく考えです。

株主の皆様におかれましては、引き続き長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 連結決算ハイライト (当中間期の業績)

売上高

**15,182百万円**

(前年同期比2.8%減)

経常利益

**1,436百万円**

(前年同期比21.8%減)

親会社株主に帰属する  
中間純利益

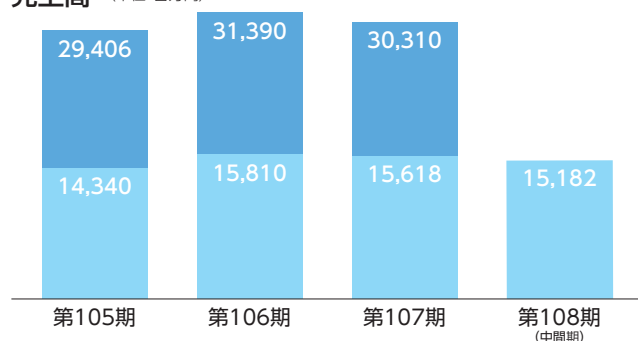
**987百万円**

(前年同期比22.2%減)

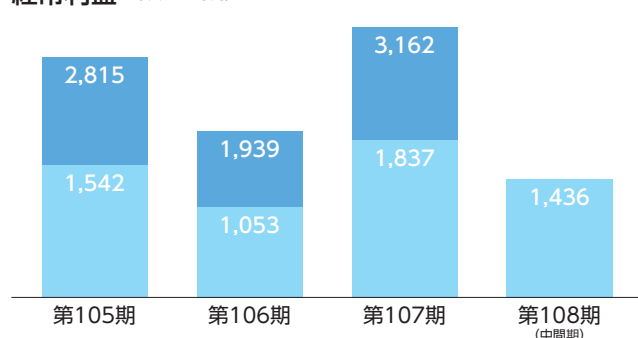
### 業績のポイント

- ポイント **1** 化学品事業及び食品事業ともに原材料価格等高騰分の価格是正を継続したものの、一部製品の販売数量の減少等により全体では前年同期と比較して減収
- ポイント **2** グループ全体で採算是正に取り組んだものの、売上高減少等により営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益は減益

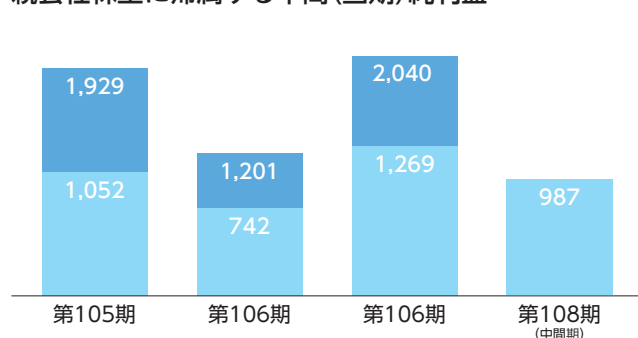
売上高 (単位:百万円)



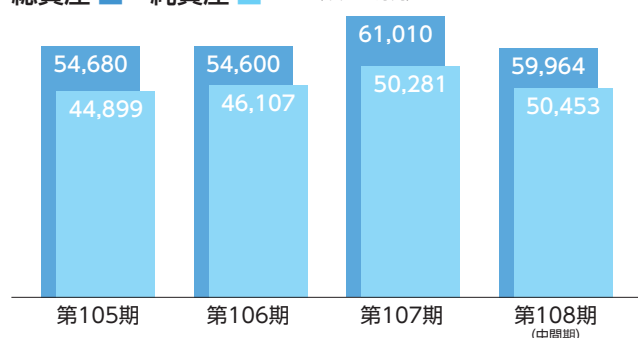
経常利益 (単位:百万円)



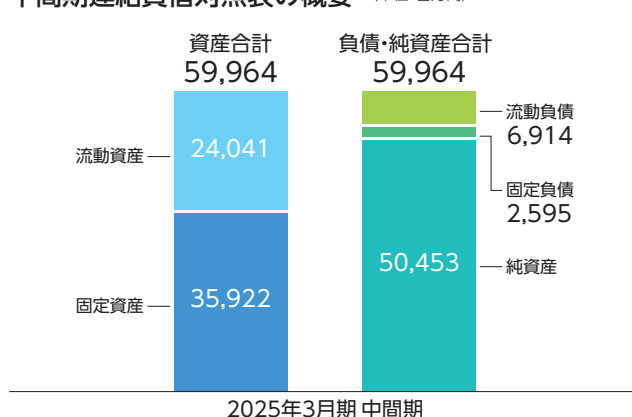
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益 (単位:百万円)



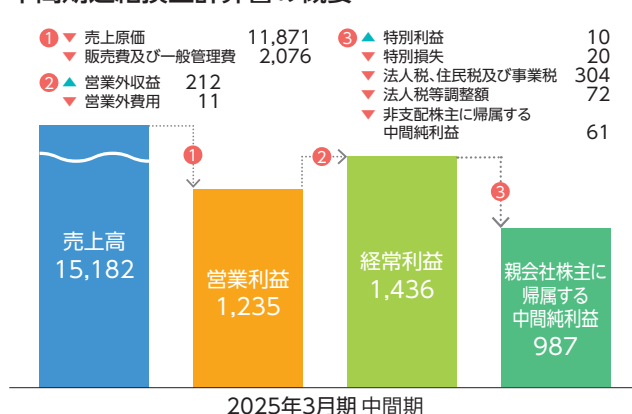
総資産 ■ 純資産 (単位:百万円)



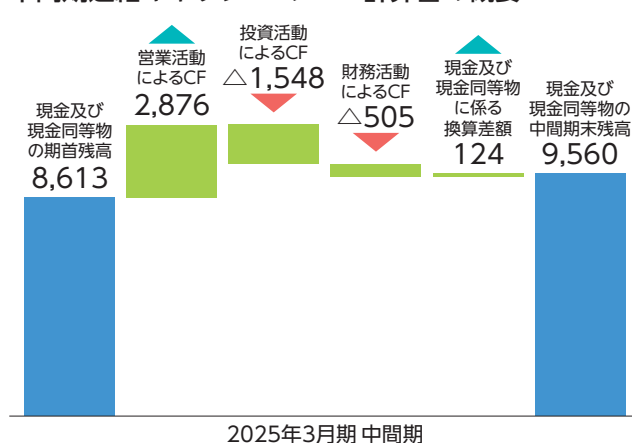
中間期連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



中間期連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



中間期連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位:百万円)



最新・詳細情報につきましては当社のIRサイトをご覧ください。  
<https://gunei-chemical.co.jp/ir/>

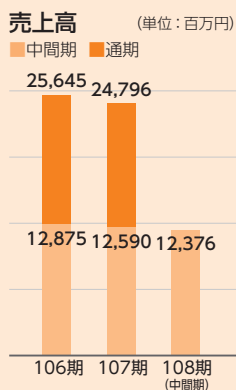
## 化学品事業

合成樹脂・高機能繊維の  
製造及び販売

- ▶ 電子材料関連向け樹脂は堅調に推移、その他用途向けは低調に推移。

売上高 **12,376**百万円  
(前年同期比1.7%減)

営業利益 **1,046**百万円  
(前年同期比25.6%減)



## ■高機能繊維「カインール」



「フェノール樹脂」を繊維にした高機能繊維「カインール」は、宇宙開発の研究から生まれ、当社が世界で唯一製造・販売しています。防炎性、耐熱性、断熱性、耐薬品性などの特長を有し、防災・安全用途や各種複合材に用いられるほか、活性炭繊維の優れた吸着性は溶剤回収用途等の環境調和分野にも使用されています。

## 当社の主要製品

## ■工業用フェノール樹脂「レゾトップ」



電子半導体材料・自動車産業・住宅産業などあらゆる産業分野に不可欠な機能材料として使用されています。

## 主な用途

電子材料産業においては、シリコンウェハーに回路を形成する際に用いられるフォトリソレジストインクや半導体封止剤などに「フェノール樹脂」が活用されています。自動車等の各種鋳物産業においては、鋳物の鋳造に使われる砂型のバインダとして、「フェノール樹脂」は鋳造業界で欠かせない存在となっています。



住宅産業においては、ガラス繊維に「フェノール樹脂」を吹き付けてできる繊維マットが断熱・防音材として用いられるなど、住宅の施工に広く使われています。

## ■3Dプリンタ用材料

3Dプリンタは世界各国で国家プロジェクトにより活発な開発が進められており、当社は、日本の国家プロジェクト（2013年から2018年）に参画しました。鋳物業界で長年培ってきた当社の技術は鋳造用バインダ用途に活用されています。また、高耐熱プラスチック材料製品を自社開発し、製造販売及び成形品の提案も行っています。

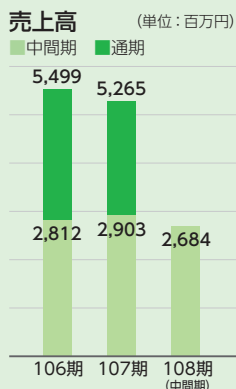
## 食品事業

でんぷん糖類の  
製造及び販売

- ▶ 猛暑による清涼飲料関連需要やインバウンド需要により回復傾向も、商品構成の見直しにより販売数量が減少。

売上高 **2,684**百万円  
(前年同期比7.6%減)

営業利益 **110**百万円  
(前年同期比8.7%減)



## ■保水性糖質素材「ピュアトース®」

「ピュアトース®」は、主成分であるマルトトリオースが食品中の水を安定化します。その結果、食品にしっとり感を付与し、食品が硬くなる現象(でんぷんの老化)を抑制します。また、低甘味で素材の風味を引き立てることができ、幅広い食品で利用されています。



## 当社の主要製品

## ■スリーシュガー（JAS果糖ぶどう糖液糖／JASぶどう糖果糖液糖）

JAS果糖ぶどう糖液糖(果糖分55%)、JASぶどう糖果糖液糖(果糖分42%)、これらに砂糖を混合した異性化液糖製品があります。砂糖よりすっきりとした甘味が特徴です。また、冷たいほど甘味が強くなるので、清涼飲料や冷菓に最適です。

## ■コーソグル群栄(JAS精製ぶどう糖)

JASの基準に合致した、高品質、高純度のぶどう糖です。ぶどう糖は直接体内に吸収されるため、すぐれたエネルギー源となります。また、砂糖や果糖とも相性よくとけあいます。各種菓子類をはじめ、水産練製品、酒類、医薬品など、幅広くご使用いただけます。

## ■酵素水飴

当社独自の技術で製造された水飴は、ほどよい甘みと独特の粘りが特徴で、食品のデリ、ツヤ、コクを出すのに最適です。

## ■グンエイオリゴS

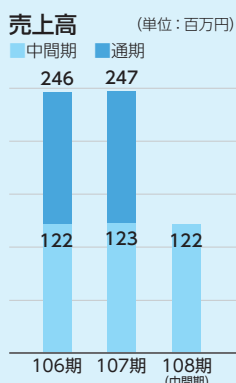
単糖が数個結びついたオリゴ糖は、人間の消化酵素で分解されないため、そのまま大腸に到達し、代表的な善玉菌であるビフィズス菌の増殖を助ける生理効果を持っています。当社のイソマルトオリゴ糖は、こうした生理効果を持ちながら、うま味、コク味も併せ持ち、健康ニーズにお応えしています。

## 不動産活用業

- ▶ 前年同期並みで推移。

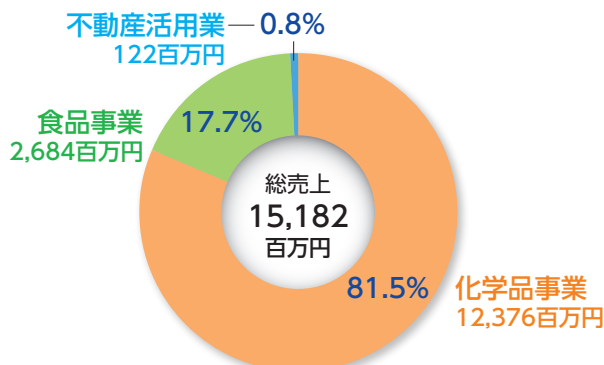
売上高 **122**百万円  
(前年同期比1.0%減)

営業利益 **78**百万円  
(前年同期比0.9%減)



## 事業別売上高構成(連結)

2024年4月1日～2024年9月30日



(注) 構成比率は、小数点第2位を四捨五入しております。

## GCIグループ中期経営方針 2024

▶ **長期ビジョン**  
(ありたい姿) 合成・糖化技術の開発・再構築によりグローバルにソリューションを提供し、社会の持続的成長に貢献できる **“Green Chemical Industry (GCI)”** となる

▶ **基本方針**

|                   |                        |
|-------------------|------------------------|
| 1. 新規事業創出のための基盤作り | 2. サステナビリティを巡る課題への取り組み |
| 3. 経営基盤の強化        | 4. 生産性向上、収益力強化         |

▶ **4つの目指す方向性**

① 高純度・先端材料

電材分野

② 環境対応ケミカル

Green分野

③ 高機能糖ケミカル

④ 経営基盤強化

### 環境対応ケミカル Green Chemicalの中心である高機能繊維カイノールの新たな可能性と出会う場所「Kynol.com」公開

2023年12月にカイノール専門のwebサイト「Kynol.com」を公開しました。サイトの目的はカイノールをグローバルにPRし、お客様にカイノールの特徴を知っていただくことです。製品の魅力と最新情報が分かるコンテンツを用意し、webサイト訪問者にとって見やすく、分かりやすい設計としています。閲覧時にカタログをダウンロードすることができ、ITツールの導入により営業効率が上がる仕組みとしました。「Kynol.com」の認知度を上げる取り組みも進めており、展示会への参加やお客様へ訪問時に「Kynol.com」のQRコードを印字したPRカードや名刺を配布しています。公開後は、国内外から魅力的な問い合わせが続々と届いています。

また、カイノールのグローバル展開を促進していくため、海外子会社を含めた第1回 Kynolグローバル会議を開催し、各会社の取り組みや最新の開発状況についてのディスカッションを実施しました。カイノールは当社オンリーワンの製品です。環境対応への期待が一層高まる中、ブランドイメージの確立に向け取り組んでまいります。



カイノール専用サイトはこちら  
<https://kynol.com/ja/>

### 環境対応ケミカル 国際展示会での「特殊フェノール樹脂 Milex」拡販

2024年9月15日から18日に米国テキサス州で開催された「2024 Brake Colloquium & Exhibition-42nd Annual」に米国子会社のA-GCIと共同で出展しました。本展示会は自動車部品のブレーキに特化した国際展示会であり、材料に関するサプライヤーによる展示と技術セッションで構成されています。A-GCIは本分野での営業活動や本展示会での継続的な出展により、お客様とのコミュニケーションを円滑に進められており、技術的にはGHG削減、生産性向上等に関する提案(速硬化樹脂による生産性改善)にも一定のご理解をいただき、サンプル評価に至っています。新規のプログラムに採用されるよう継続的な提案を実施してまいります。



国際展示会で説明を行う様子

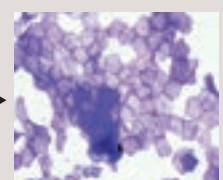
### 高機能糖ケミカル 糖鎖を変性した保湿性化粧品原料「HAGmi」を開発

当社ではこれまで培ってきた糖鎖に関する知見、化学合成技術や分析技術を融合させ、化粧品市場に向けた新製品開発を進めています。同市場に向けて新製品の上市を目指し、評価技術確立と化粧品メーカーに向けた提案データの取得に精力的に取り組んでいます。こうした中、当社独自の技術を用いて糖鎖を変性した保湿性化粧品原料「HAGmi」を開発し、市場へのサウンドを開始しました。「HAGmi」は肌に塗布することにより肌表面の水分量向上・キメの改善が確認されており、得られたデータをもとに提案活動を進め複数社から採用をいただいています。さらに幅広い用途・アイテムへ展開すべく、開発・拡販活動を進めており、Green分野での飛躍を目指しこれからも挑戦してまいります。

当社製品希釈液(HAGmi)を肌に塗布することにより、キメの改善が確認されました。  
◇形模様が多少いほど、キメ細かい肌となります。



HAGmi塗布前



HAGmi塗布後

## GCIグループのサステナビリティ

わたしたちGCIグループは「化学の知識とアイデアでソリューションを提供し、より豊かな未来社会創りに貢献する」という企業理念に基づき、以下に掲げる指針に沿ってステークホルダーとの強固な信頼関係を構築し、サステナビリティを巡る課題への対応に積極的に取り組んでまいります。



GCIグループのサステナビリティ

| ESG | GCIグループのサステナビリティ                       | SDGs 17の目標                                                                                                                                                                             |
|-----|----------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| E   | 循環型社会の形成を目指し、地球環境の保全に努めます              | 3 持続可能な開発を推進し、地球環境を保全する<br>4 質の高い教育をみんなに<br>7 再生可能エネルギーを普及させる<br>9 産業と技術革新の基盤をつくろう<br>11 住み続けられるまちづくりを<br>12 つくる責任<br>13 気候変動に具体的な対策を<br>15 陸の豊かさも守ろう<br>17 パートナリシップで目標を達成しよう          |
| S   | 基本的人権・多様性の尊重、公正な評価により働きやすい職場環境づくりに努めます | 3 持続可能な開発を推進し、地球環境を保全する<br>4 質の高い教育をみんなに<br>5 ジェンダー平等を推進する<br>8 働きがいと経済成長を<br>9 産業と技術革新の基盤をつくろう<br>10 人や国の不平等をなくそう<br>17 パートナリシップで目標を達成しよう                                             |
| S   | 健康で豊かな社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します       | 1 貧困をなくそう<br>2 健康と福祉を<br>3 持続可能な開発を推進し、地球環境を保全する<br>4 質の高い教育をみんなに<br>6 安全な水とトイレを世界中に<br>10 人や国の不平等をなくそう<br>11 住み続けられるまちづくりを<br>13 気候変動に具体的な対策を<br>15 陸の豊かさも守ろう<br>17 パートナリシップで目標を達成しよう |
| G   | 製品の品質・生産性の向上及び安全性確保に努めます               | 8 働きがいと経済成長を<br>9 産業と技術革新の基盤をつくろう<br>12 つくる責任<br>13 気候変動に具体的な対策を<br>17 パートナリシップで目標を達成しよう                                                                                               |
| G   | 法令、社会規範、社内規程・規則を遵守し、公正な事業活動を行います       | 3 持続可能な開発を推進し、地球環境を保全する<br>8 働きがいと経済成長を<br>9 産業と技術革新の基盤をつくろう<br>12 つくる責任<br>14 海の豊かを守ろう<br>15 陸の豊かさも守ろう<br>16 平和と公正をすべての人に<br>17 パートナリシップで目標を達成しよう                                     |

## 全国みどりの工場大賞 関東経済産業局長賞 受賞

経済産業省主催にて工場緑化に顕著な功績のあった工場に対して贈られる緑化優良工場等表彰(通称「全国みどりの工場大賞」)において「関東経済産業局長賞」を受賞しました。当社では今後も敷地内の緑化を通じた環境負荷低減活動に力を入れてまいります。



## 2年連続で「CDP B-」の評価を取得

CDPは企業や自治体等の環境に対する取り組みや情報開示を評価するイギリスで設立された環境非政府組織(NGO)であり、グローバルな情報開示システムを運営しています。CDPは、質問書に対する企業の回答から環境へのパフォーマンスを8段階で評価し、スコアリングをしています。また、CDPは日本の全プライム上場企業に質問書への回答を要請しており、2023年度は1,182社、64%が回答している状況です。

当社は、2022年度に初めてCDP気候変動質問書への回答要請を受け、当社単体にて回答を行い、「B-(マネジメントレベル)」の評価をいただきました。2023年度については、連結グループに回答範囲を拡大し、2年連続で「B-」の評価を受けることができました。2024年度は、CDP質問書が大きく見直され、水セキュリティ質問書への回答要請も受けていることから、対応を進めています。

今後も、当社として取り組むべきサステナビリティ課題について議論を行い、取り組みの充実を図ってまいります。



## 2年連続で「エコバディス・ブロンズ」格付け

EcoVadis(エコバディス)は、グローバルサプライチェーンを通じた、企業の環境・社会的慣行の改善を目指し、サ

プライヤー企業のCSR方針や施策、業績の評価サービスを提供しているフランスで設立された評価会社であり、「環境」「労働と人権」「倫理」「持続可能な資材調達」の4分野で、世界175カ国、10万社以上の企業を評価しています。

当社は、2022年度に初めてブロンズメダルが付与され、2023年度も2年連続でブロンズメダルが付与されました。2023年度までのメダル付与基準としては、上位50%以内の企業に付与されます(2024年度から付与基準が変わり上位35%以内となりました)。

今後も、格付けを維持向上できるよう取り組みを進めてまいります。



## 女性活躍推進の取り組み ＜当社初の女性役員誕生、座談会を実施＞

本年6月開催の当社第107回定時株主総会での承認をもって、鈴木宏子氏が新たに取締役役に就任し、当社では初めての女性役員の誕生となりました。鈴木氏は製造業での豊富な経験と経営者としての幅広い見識とともに、海外での監査法人勤務経験などグローバルかつ会計等に関する専門的な知見を持っており、異なるバックグラウンドでの経験をもとにした様々な角度からの意見を経営に取り込んでいます。

また、昨年は女性活躍推進をサステナビリティ課題の重要テーマとして定め、現状把握を目的とした職場環境に関する全社員調査やキャリアイメージ醸成のための女性社員による座談会を行いました。座談会での意見をもとに、女性のみならず全員が活躍できる風土づくりに向け、マクロな視点での課題探求に取り組んでいます。本年4月には早期登用制度の活用もあり新たに女性2名が管理職となりました。今後も幅広い年代・性別の社員が活躍できるよう推進活動に取り組んでまいります。

## 会社の概要

|      |                                                  |
|------|--------------------------------------------------|
| 商号   | 群栄化学工業株式会社<br>Gun Ei Chemical Industry Co., Ltd. |
| 設立   | 1946年1月23日                                       |
| 資本金  | 50億円                                             |
| 従業員数 | 552名(連結)                                         |

## 役員

|                 |        |                |       |
|-----------------|--------|----------------|-------|
| 代表取締役会長         | 有田 喜一  | 取締役<br>常勤監査等委員 | 笠原 勲  |
| 代表取締役<br>社長執行役員 | 有田 喜一郎 | 社外取締役<br>監査等委員 | 平澤 洋一 |
| 取締役<br>執行役員     | 丸山 克浩  | 社外取締役<br>監査等委員 | 鈴木 宏子 |
| 社外取締役           | 大村 康二  |                |       |

## 株式情報

## Stock Information

(2024年9月30日現在)

## 株式の状況

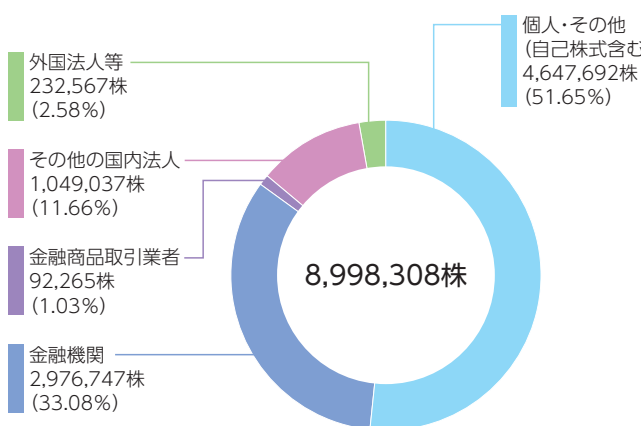
|          |             |
|----------|-------------|
| 発行可能株式総数 | 17,621,100株 |
| 発行済株式総数  | 8,998,308株  |
| 株主総数     | 5,286名      |

## 大株主

| 株主名                                                 | 持株数(株)  | 持株比率(%) |
|-----------------------------------------------------|---------|---------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)                             | 593,900 | 8.95    |
| 株式会社日本カストディ銀行<br>(三井住友信託銀行再信託分・<br>三井化学株式会社退職給付信託口) | 578,500 | 8.72    |
| 群栄化学取引先持株会                                          | 520,142 | 7.84    |
| 株式会社群馬銀行                                            | 304,512 | 4.59    |
| 株式会社横浜銀行                                            | 245,853 | 3.71    |
| 三菱UFJ信託銀行株式会社                                       | 232,700 | 3.51    |
| 株式会社日本カストディ銀行(信託口)                                  | 195,800 | 2.95    |
| 東京応化工業株式会社                                          | 168,330 | 2.54    |
| 光通信株式会社                                             | 157,600 | 2.38    |
| 日本生命保険相互会社                                          | 157,289 | 2.37    |

(注)持株比率は、自己株式(2,364,912株)を控除して計算し、小数点第3位を四捨五入しております。

## 所有者別株式分布状況(株式数)



(注)持株比率は、小数点第3位を四捨五入しております。

## 株主メモ

|              |                                                                                                                                                           |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 事業年度         | 4月1日から翌年3月31日                                                                                                                                             |
| 期末配当金受領株主確定日 | 3月31日                                                                                                                                                     |
| 中間配当金受領株主確定日 | 9月30日                                                                                                                                                     |
| 定時株主総会       | 毎年6月                                                                                                                                                      |
| 株主名簿管理人      | 三菱UFJ信託銀行株式会社                                                                                                                                             |
| 特別口座の口座管理機関  |                                                                                                                                                           |
| 同連絡先         | 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部<br>東京都府中市日鋼町1-1<br>電話0120-232-711 (通話料無料)<br>郵送先<br>〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部                                    |
| 上場証券取引所      | 東京証券取引所                                                                                                                                                   |
| 公告方法         | 電子公告 URL <a href="https://www.gunei-chemical.co.jp">https://www.gunei-chemical.co.jp</a><br>ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子<br>公告による公告をすることができない場合は、日本<br>経済新聞に掲載 |
| 幹事証券         | 野村證券株式会社<br>みずほ証券株式会社<br>SMBC日興証券株式会社                                                                                                                     |

(お知らせ)

## 1 ご注意

- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 2 中間配当金計算書について

同封いたしております「中間配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成する「支払通知書」を兼ねております。  
なお、配当金を証券口座でお受取り(株式数比例配分方式)の株主様は、お取引のある証券会社へご確認ください。

## 3 マイナンバーのお届出について

2016年1月より利用開始されたマイナンバーですが、こちらは株式の税務関係手続きでも必要となります。このため、株主様はお取引の証券会社等へマイナンバーのお届出をお願いいたします。

## 【株主様のマイナンバーの利用用途】

税務署に提出する支払調書(※)への記載

※配当金等に関する支払調書

単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書

## 【マイナンバーのお届出に関するお問い合わせ先】

●証券口座にて株式を管理されている株主様

お取引の証券会社までお問い合わせください。

●証券会社とのお取引がない株主様

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

0120-232-711 (通話料無料)